

会 議 録

会議の名称		令和7年度第3回高山学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和8年2月20日（金）開会 17:00 閉会 19:00		
開催場所		かとりだい交流館 会議室1		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	山本 敦之、中川 元、青木 真矢、飯野 誠一、清水 健 渡辺 恵美子、亀山 健一郎、星野 浩一、石川 貴子 石濱 正善、堀越 尚子、堀田 誉 高山中学校：校長 荒井 克彦、教頭 小林 博 教務主任 松永 祐樹、 教諭 毛塚 裕之 真瀬小学校：校長 大久保 悦郎、教務主任 宮本 順子 教諭 吉原 勝 島名小学校：校長 矢口 雅義、教頭 川田 玲美 香取台小学校：校長 大高 純子、教頭 佐藤 尚子 教務主任 鈴木 一彦		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 課長：澤頭 由紀子 教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議「高山学園CS協議会の意義を深掘りする」 ・未来を拓く子供たちの育成について		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開会 2 あいさつ ・CS協議会長 ・学園長 3 協議			

	<p>(1) 令和7年度事業実施報告 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の連携事業について ・学校評価アンケートから </p> <p>(2) 熟議「高山学園CS協議会の意義を深掘りする」 <ul style="list-style-type: none"> ・未来を拓く子供たちの育成について </p> <p>(3) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール協議会の今後（次年度含む）の予定 </p> <p>4 閉会</p>
	<p><審議内容></p> <p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 会長あいさつ（山本会長） ●回数を重ね、委員同士で深い議論ができる時期になった。本日は頑張って進めていきたい。 学園長あいさつ ●協議会で話し合われた方向性を基に、各校で様々な事業を展開できた一年であった。 ●本日は事業報告とともに、次年度に向けた前向きな話し合いを期待している。</p> <p>3. 協議 (1) 令和7年度事業実施報告 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の連携事業について ・学校評価アンケートから 各校より、地域連携事業と学校評価アンケートの結果について報告がなされた。</p> <p>《真瀬小学校》 ●連携事業： 創立149周年のお誕生日会に向けた取組や、地域回覧板を活用した教育活動の「見える化」を推進した。また、縦割り班での探究学習や外部人材を活用したスポーツ体験等を実施した。 ●成果： アンケートでは「思いやりの心」が96%、「心の教育」が95%と高い肯定回答を得た。 ●課題： 「主体的な学習」への肯定回答が75%にとどまる。自立した学習者の育成と、ICT端末の効果的な活用が今後の課題である。</p> <p>《島名小学校》 ●連携事業： 「島名小見守り会」を発足し、約50名が登録。登下校の安全が向上した。また、5年生の米づくり体験に関連し、防災キャンプを兼ねた「感謝の会」を実施した。 ●成果： 児童・保護者ともに90%以上が「学校生活が楽しい」と回答している。 ●課題： 「個に応じた学び」や「いじめ防止」への取組について、児童の評価（90%超）に比べ、保護者の評価（59～66%）が低い。情報発信の強化が必要である。</p> <p>《香取台小学校》 ●連携事業： 防災をテーマに「かとりだい未来キャンパス」を開催した。筑波</p>

大学と連携した「防災ロゲイニング」などを実施した。

- 成果：学校の「安全・安心」に対し保護者の96%が肯定回答
- 課題：児童の学習意欲は向上しているが（前年比8ポイント増）、保護者の評価は70%前後と認識に差がある。成長を可視化して伝える工夫が必要である。

《高山中学校》

- 連携事業：PTA共催による環境整備、助産師を招いた性教育講演会、障がい者スポーツ（フライングディスク）体験を実施した。
- 成果：情操面の成長（思いやり87%）や人権意識（89%）で高い評価を得た。
- 課題：「地域貢献」への肯定回答が76%であり、地域との関わりを「自分事」として捉えるためのネットワーク構築が重要である。

(2) 熟議「高山学園CS協議会の意義を深掘りする」

・未来を拓く子供たちの育成について

《アンケート結果への考察》

- 数値の捉え方：目標値（85%以上）に対して現状は高いが、不登校児童生徒の増加など、数値に表れない側面も注視すべきである。
- 保護者の視点：アンケートが「保護者が学校を評価する」というお客様視点になりすぎていないか。保護者自身がどう子供と向き合っているかの自省的な視点も必要ではないか。

【未来を拓く子供たちの育成】（山本会長によるプレゼンテーション）

- 社会情勢の変化：出生数は政府予想を上回るペースで減少しており、2030年には深刻な状況となる。
- 技術革新と教育：ロケットの再着陸技術やフィジカルAIを搭載したロボットの登場により、世界との差が開いている。
- 必要な力：異文化やロボットとも共生できるマインド、言語化能力、コミュニケーション能力が不可欠。学校のリソースだけでは次期学習指導要領の内容（3Dプリンターやエネルギー変換等）の実現は難しく、地域の力が必要である

《グループ別熟議のまとめ》

- Aグループ：多様な大人（大学生や農家等）と出会い、視野を広げる機会を作りたい。座談会などの交流の場を企画したい。
- Bグループ：子供が学校を「リラックスできる場」と感じている実態がある。地域との接点が減る中で、親以外の大人との接点をどう作るかが鍵である。
- Cグループ：AI時代だからこそ「実体験のプロセス」が重要。親子で参加できるコミュニティ活動を増やしたい。
- Dグループ：学校現場には不登校など多様な課題を抱える子がいる。CSが学校を支え、地域・保護者を巻き込む仕組み作りが重要である。

(3) その他

・コミュニティ・スクール協議会の今後（次年度含む）の予定

- 会計監査の依頼（香取台小）：PTA解散に伴い、協議会委員に学校会計の

監査を依頼している。3月19日（木）15:00より実施予定である。

- 次年度の連携案：筑波大学蹴球部（サッカー部）と連携したスポーツ・芸術交流イベント「未来キャンパス パート2」を11月27日に計画している。
- ボランティア管理のデジタル化：保護者の自主性を引き出すため、面談予約システムなどを応用したボランティア募集・管理の検討。
- 教員の働き方改革：4月からの業務量管理徹底に向け、改革は「先生が楽をするため」ではなく「子供と向き合う余白を作るため」であることへの理解を求めた。
- 事務局より：評価ガイドラインの活用と、将来的に卒業生が委員として戻ってくるような循環を期待する。

4. 閉会

- 本日の会議の様子は、つくば市教育委員会のホームページに掲載予定

令和7年度 第3回高山学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和8年2月20日（金）

17:00～

場所：香取台交流館 会議室1

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
 - ・CS協議会長
 - ・学園長
- 3 協議
 - (1) 令和7年度事業実施報告
 - ・各校の連携事業について
 - ・学校評価アンケートから
 - (2) 熟議「高山学園CS協議会の意義を深掘りする」
 - ・未来を拓く子どもたちの育成について
 - (3) その他
 - ・コミュニティ・スクール協議会の今後（次年度含む）の予定
- 4 閉会

次第	<ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶 ・学園長挨拶 <p>3 協議：</p> <p>(1) 熟議1「地域と学校の連携事業についての共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の連携事業の進捗状況 <p>(2) 熟議2「CS協議会の活性化を図るために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を拓く子どもたちの育成について <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定 <p>4 閉会</p>
----	--

<p><審議内容></p>	
1	<p>開会</p> <p>松浦委員：ただ今から、令和7年度 第2回 高山学園コミュニティ・スクール協議会を開会します。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。島名小学校 宮本教務主任にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>→宮本先生 承認</p>
2	<p>挨拶</p> <p>会長挨拶：熟議2において、各学校括りではなく、学園全体で取り組むことを考えていきたい。</p> <p>学園長挨拶：次年度のイメージをもってCSの活性化について進めていきたい。</p>
3	<p>協議</p> <p>会長：続いて、熟議に入ります。</p> <p>(1) 熟議1「地域と学校の連携事業についての共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の連携事業の進捗状況
<p><真瀬小></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年150周年に向けた149周年事業 ・保護者によるボランティア活動 改修工事に伴う荷物の運搬や種まき ・あいさつ運動 のぼり作成 ・R8年度に向けて <p>卒業しても小学校のために活動したい保護者の声を受けて、PTAの人脈等を活用し、CSのメンバーを増やし、次の年にいかしていく。</p>	
<p><島名小></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「島名小学校子ども見守り隊」の発足（地域の人たちで家の前や散歩等で子供たちの登下校を見守る）約40名の登録 ・要項やお便りで時間帯や注意事項を共有 	

・安全ベストを作成して配布 早くて12月から活動できるか。

・課題：地区によっては登録なし

→高齢の方と子供との関わりを増やし、子供の安全とともに地域も元気をもらえるような意図を、文書や回覧ではなかなか理解してもらうのが困難な状況もあった。（「やらなきゃいけない」というものではない）

→地域学校協働活動が浸透し、今後も登録が増えていけば… →堅苦しさを感ぜない程度で、活動の様子等を可視化できる機会があると良い。（島名地区の温かい地域性を知ってもらおう）→「感謝の会」でこうした方々に児童が感謝の気持ちを伝える 挨拶が飛び交う様子が見られるようになってほしい。

<香取台小>

・9月第1土曜日奉仕作業 親子で参加

・11月 防災体験活動を計画 地域にも協力してもらいオープンスクールを活用した。

・各学年様々な防災学習に取り組む。→筑波大に協力依頼。学区内で防災のチェックポイントを回る。中央消防署の協力→けむり体験など

・毎日のように外部とやり取りをしながら、学校外の体験の機会を充実させている。

<高山中>

・9月7日環境整備（除草作業）保護者以外にも参加してくれた。

・10月22日 性教育講演会 地域にも周知

・11月27日 障害者スポーツ体験フライングディスク協会に委託

→8年生だけでなく地域の人にも参加してもらう予定

・12月 環境整備

・来年度のCS協議会委員→現在教職員が多いので地域の方を増やしていきたい。

(2) 熟議2「CS協議会の活性化を図るために」

・未来を拓く子どもたちの育成について

会長：CSの活動は「子供たちの学びの場を地域と連携してより良くしていく」

・学園単位で考える際、未来の子供達に必要な力を共有したい

→<出生率の減少>

楽観シナリオ：2016年に子供の数が100万人を切ってどんどん減ってきている。政府は支援によって今後出生率が回復すると予想しているが、それは楽観的ではないか。

中位シナリオ：2070年台に出生率が安定する。日本が成長し持続可能性を意識した創造性協働性が必要

悲観シナリオ：劇的に出生率が低下する。これまでの経緯を考えれば十分ありえる。2070年代には10~20万人。負のスパイラルが生じる。「産み育てやすい環境」を作れるのか。子供が希望を持てるのか。これは現実的ではないか。

このままだと、廃校の増加、新卒がほとんどいなくなり、1人で3人分働かなければならなくなり、現役世代が8割減少していく未来も予想される。アメリカではロケットが帰ってきて再利用できるシステムがある。日本のホンダでは6mのロケットが300メートル飛ばして帰ってくる実験を行った。アメリカと日本では6年の開きがある。

Why (なぜ) 「子供たちのためにそれをやるのか。」を考えなければならない子供を支える側が持たなければならない意識の必要性

活性化させるためにやらせたいこと (「なぜ」の視点で)

学校混合のグループ分け

A

- ・子供と一緒に地域の未来を話し合う場があっても良い。未来を語る大人の姿を見せることも大事
 - ・相手を大切にする、相手の幸せを願う態度を育成したい。
- 防災など地域で活動することで相手意識を持つことができる。地域とつながる機会を増やすことで、大人の姿が見え、大人も子供の姿が見え、互いに作用し合ってよりよくなっていく。

B

- ・CSは出会いの場と考える。教員と保護者、保護者同士のつながりをつくり、保護者だけでなく地域の声を聞き実現していく場にしていきたい。
- ・願いを叶える場としてCSを発展させていくことで次世代をより良くしていく。
- ・新しい住民の方も引き込んでいきたい。

C

- ・PTAを復活させる。こうした大人が子供のために頑張る機会が大切。「負担」という言葉に捉われず、「なぜやるのか」を大事にしていきたい 地域の人が中心になって取り組んでいく。
- ・0から1を作るのは課題が多い。しかし、動き出すことがとにかく大切である。
- ・地域を盛り上げる取組が大切→地域で同じことを続けていくことが重要。子供達もそこに参加させていく。
- ・子供が自分たちでつくりあげたという意識をもたせたい。→子供を引き込む

D

- ・人と人がつながって協働して新しいものを作り出していける力
- コミュニケーション「あいさつ」からつながり、活動が生まれていく (協働力) のではないか。
- ・子供が支えられている自覚 (感謝) を持ち、地域の課題に参加して地域と共に解決を目指す=楽しい活動になるように
 - ・自分が住んでいる地域や街を自分でよりよくしていこうとする態度が育つ。
 - ・新しいコミュニティで保護者同士のつながりを強化したい。
 - ・地域によって実情が異なるのでそれを理解することが大切。

- ・学校からの情報発信が重要→それでも子供の姿がしっかりは見えない→学校から見る子供の姿と保護者から見る姿と地域から見る姿も異なる。保護者が学校の先生の考えとなるべく近い立場でありたい。
- ・学校の方向性を否定的に捉えたり発信したりする保護者ではなくしたい。→学校と家庭の協働が必要。
- ・子どもが迷う→家庭が学校に信頼をおき、前向きに学校に委ねていくことが必要じゃないか。
- ・学校が楽しい場所にならないと、子供から家庭へのポジティブな発信にならない。
- ・学校が保護者を教育することはできない。→子供を変えて、学校生活を充実させたい。子供から家庭を変えていく。
- ・デジタル化による理解の格差もある。情報がきちんと家庭に伝わっていない側面もある。
- ・学校の役割として負わせ過ぎている部分がある（CSも含む）。こうした学校に委ねる負担が大きくなることで「楽しい」がなくなっていくのではないか。先生方もそれによって動けなくなっている。
- ・「挑戦しろ」というけど、大人が挑戦していない。それでは子供も挑戦しない。→挑戦や失敗を体験できるCSの場を設定したい。
- ・先生のパーソナルな部分や自己開示に子供は魅かれるのではないか。授業の「学習」よりもこうした「遊び」が子供の楽しさに伝わることもあるのではないか。
- ・地域を「避けようとする」人もいる。

会長：継続的にこうした議題を検討していくこと、我々が話し合ったこと・課題を心の中に置いていくことが大切。

- ・英語の重要性 → 異文化を理解する力
- ・悲観した未来を止めることが我々の役目

(3)その他

会長：最後に御出席のみなさんから何かありますでしょうか。

次回の開催予定日等について、松浦教頭先生、よろしくお願いします。

松浦委員：本日は、ありがとうございました。次回、第3回目は令和8年2月20日（金）の予定です。開催時間は17時から、会場はかとりだい交流館を予定しています。詳細は、追って御連絡いたします。

事務局：「地域も学校も活性化するためにCSはどうあるべきか」

つくば市社会教育委員会議答申より

- (1) 持続可能な体制づくり
- (2) 地域と学校の信頼関係の構築について
- (3) 地域人材との連携について

地域人材の発掘と育成、横のつながりをどう作るか。
学校に常駐できるような人がいたら・・・
継続してCSの活動をより良くしていけば、このようなことも実現していけるのではないだろうか。

CSの2つの柱・歯車

①CS協議会 ②地域学校協働活動

各学校でも集まり②についてさらに深め、進めていければ 様々な人材を巻き込んでより良くしていく。

4 閉会

本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定。